

シティライフ学部の教育課程編成の基本的な考え方（カリキュラム・ポリシー）

シティライフ学部の教育目標を実現し、「豊かな都市生活の実現に貢献する人材（専門家）」を養成するため、以下の教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

〈カリキュラム・ポリシー〉

- ① 幅広い教養とコミュニケーション能力の育成のために、専門分野に限らない幅広い教養と普遍的な知識を身に付けるとともにコミュニケーション能力向上のための機会を充実させる。
- ② 専門的な知識を修得する前提として基本的な知識を修得するとともに、情報収集・処理能力を身に付けさせる。
- ③ 都市生活の現状に対応できる学際的・実践的な専門的知識を修得させる。
- ④ 社会と多様なネットワークを形成し、学んだ知識を実際の場で活かす実践的な能力を育成する。

（1）豊かな都市生活の実現に貢献するための必要な4つの能力の育成

① 幅広い教養とコミュニケーション力の重視

幅広い教養とコミュニケーション能力の育成のために、専門分野に限らない幅広い教養を身に付けるための教養科目の充実を図るとともに、コミュニケーション能力向上のための科目を設定し、合宿交流研修の実施、課外活動の奨励等を行っている。

教養科目として、教養科目群を設定し、選択必修科目として位置づけ、自然、社会、人文、人間、教育の5分野を用意し、大学生として必要な幅広い教養と普遍的な知識を身に付けられるようにしている。

コミュニケーション能力育成のために、1年次からゼミ活動を必修として位置づけるとともに、自らの考えを適切に表現するための科目を設定している。さらに、1年次生と2年次生全員を対象とした合宿交流研修により、実践的なコミュニケーション能力の向上を図っている。

② 基本的知識の習得及び情報収集・処理力の重視

専門的な知識を習得する前提として、基本的な知識の習得と情報収集・処理能力の習得が不可欠である。

基本的、普遍的な知識を習得させるため、必修科目及び選択必修科目からなる基本科目群を設定している。基本科目は、経済学に関する基本的な科目、シティライフ学全般に関する科目及び専門科目の導入的な科目で構成している。

語学力の養成のため、初年次の必修科目である英語とオーラル以外に、第2外国語又は2年次以降の英語科目を必修科目として課している。情報関連科目については、選択必修科目として、学生の情報関連科目の習得状況に応じて、選択して履修できるように科目を設定している。

③ 都市生活の現状に対応できる学際的・実践的な知識の重視

都市生活の現状を学問的に把握するためには、深い専門的な知識が必要である。こうした専門的な知識を習得させるため、発展科目群として、経済学の応用分野に関する科目、都市の様々な側面に関する科目などの専門的な科目を用意し、学生の興味に応じて選択できるようにしている。また、都市生活の実態に迫る科目を多数用意し、抽象的な理論からではなく、個々の生活者を念頭に置いて考える生活者の視点を意識させるよう考慮している。さらに、ゼミ活動を必修として位置づけ、実践的な知識の習得を目指している。

専門科目は、基本科目を踏まえて段階的に専門性を高められるように科目配置を行っている。

④ 社会とのつながりの重視

学生の教育に当たっては、学んだ知識を実際の場で生かす実践的な取り組みを重視し、教室で学ぶだけでなく、実際にまちの中の活動を体験することにより考えられるよう考慮している。

また、学生が社会に出て、その持てる力を十分に発揮できるよう、キャリア教育の充実を図っている。社会に出て活動する意義を早い段階で考えさせ、社会人としての職業倫理を身に付けられるように考慮するとともに、社会に出て実際に必要となる能力の養成（資格取得等）にも力点をおいている。

(2) 総合的に都市を把握する能力の重視

シティライフ学部では、先に掲げた4つの能力とともに、「都市の経済と経営」、「都市づくり」及び「都市の社会と生活」という3つの観点、側面から、都市を総合的に把握する能力を育成することを目指している。

① 都市の経済と経営

都市における活動を把握するためには経済的側面の理解が極めて重要である。また、経営という視点も欠かすことができない。そのため、経済学に関しては経済学の基礎及び入門、ミクロ経済学、マクロ経済学などの基本的な科目を必修科目とし、都市経済学、公共経済学、経済政策論などの専門的な科目を選択必修科目として設定している。さらに、環境経済、労働経済、国際経済、各国経済、金融等の経済学の応用分野に関する多様な科目を用意している。都市で活動するためには企業活動に対する理解が不可欠であり、経営学や会計学、マーケティングなどの基礎的な知識に加え、企業経営等に関する専門的な知識を修得できるようにしている。

② 都市づくり

都市を物的な側面から把握することも極めて重要な課題であり、都市の形成過程から都市の現状、都市を整備するための仕組みなどにについての幅広い理解が求められる。そのため、都市問題の経緯と現状、都市の歴史を把握するとともに、まちづくりや都市計画、都市の自然と環境などに関する基礎的な知識を習得することができるよう科目を設定している。さらに、交通、住宅、景観、不動産に関連する科目など都市の物的な側面に対して深い理解ができるよう、専門的な科目を用意している。

③ 都市の社会と生活

都市を総合的に把握するためには、経済的及び物的な側面とともに、都市の社会及び生活という側面から理解することが必要である。

都市の社会的な側面を理解するために、社会学、法学、政治学、日本社会の成り立ち、観光学などの幅広い科目を教養科目及び基本科目として用意しており、都市の生活を理解するという観点から、消費者行動、生活経済、子どもの生活、高齢社会、現代社会、社会保障等に関する科目を発展科目として用意している。また、都市の社会と生活の維持向上には地方自治体の果たす役割が重要であり、地方自治や財政、都市政策などの都市自治体の機能を把握するために必要な知識を習得できるようにしている。

都市を以上の3つの観点、側面から捉えることにより、総合的に都市を把握することが可能となると考えられる。